

白屋の生き物かわら版 第1号

～ 2018 年度調査結果報告～

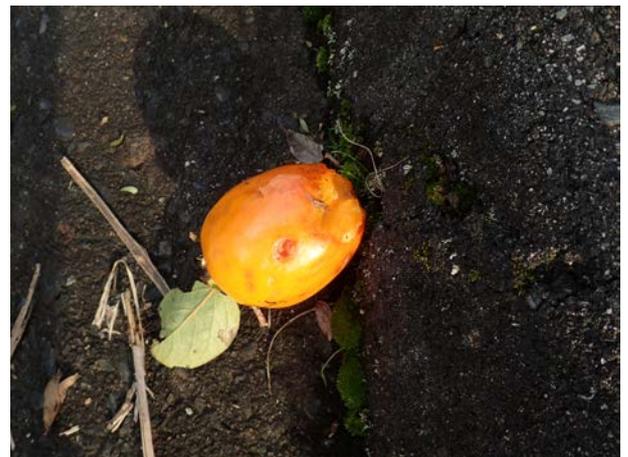
2018 年度に実施した自然生態調査の結果をご報告いたします。



バッタが教えてくれたこと

白屋地区の昆虫の特徴として、バッタの仲間が多いことが挙げられます。キリギリスやスズムシといった鳴く虫の種類が多く見つかりました。これらのバッタは背が高くなるイネ科の草地に多い傾向にあります。今まではススキが繁茂していたため、鳴く虫の種類が多く確認されていましたが、2018 年には河川敷の様に定期的な管理が行われる環境に生息するクルマバッタが確認されました。このことにより、植栽された区画の管理がしっかり行われた結果、背の低い草地を好むバッタが住み着いてくれたといえるのです。

植栽され管理された草地とススキ草地が絶妙なバランスで維持されているため、今後も白屋地区はバッタ天国であり続けると考えられま



野生動物の痕跡

ちょっとかじって美味しくないと感じたら、ニホンザルは食べ残しをします。この柿の実も、先っぽだけかじられて捨てられていましたが、この後タヌキやアナグマの餌になります。じつは柿の実には動物にかじられて落果されることで熟す速度が速くなる性質があります。



ヤブの中にひそむもの

調査をしていると、やたらとコガタスズメバチが目についたので、ひょっとしたら近くに巣があるのかな？と思い、その中の一頭を追いかけってみました。すると予想通りにウツギの茂みの中にコガタスズメバチの巣がありました。コガタスズメバチの巣の特徴として、初期巣がトックリ型であること、ヤブの中に巣を作ることが挙げられます。適切な管理を行っていても植え込みや生垣にコガタスズメバチは巣を作っ

今後注目すべき昆虫



ハラビロカマキリ

カマキリと言えば、草地でバッタやチョウを捕食しているイメージが強いですが、ハラビロカマキリは樹木の枝先で生活をしています。

ハラビロカマキリはどこにでもいる種ですが、外来カマキリにその生息地を奪われていま

忍び寄る外来種の脅威



ムネアカハラビロカマキリ

近年、同時多発的に日本各地で発見が相次いでいる外来カマキリで、在来のハラビロカマキリの生息地を侵略していると言われています。10月に吉野町で発見しました。本種は輸入竹ぼうきに卵が付着していたことから、全国一斉に広がりました。庭掃除や道路掃除でお世話になる道具なので、白屋地区の管理を行う際に竹ぼうきを使用する場合は卵が付着していないか注意してくださ